

2019年6月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

2018年11月9日

上場会社名 株式会社エーワン精密 上場取引所 東  
 コード番号 6156 URL <http://www.a-one-seimitsu.co.jp/>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 林 哲也  
 問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 林 哲也 (TEL) 042-363-1039  
 四半期報告書提出予定日 2018年11月14日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年6月期第1四半期の業績 (2018年7月1日~2018年9月30日)

(1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年6月期第1四半期	510	5.5	168	18.7	170	17.5	118	△7.4
2018年6月期第1四半期	483	4.9	142	8.5	145	7.6	127	41.6
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
2019年6月期第1四半期	49.39		—					
2018年6月期第1四半期	53.34		—					

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年6月期第1四半期	8,667	7,920	91.4
2018年6月期	8,712	7,961	91.4

(参考) 自己資本 2019年6月期第1四半期 7,920百万円 2018年6月期 7,961百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年6月期	—	0.00	—	70.00	70.00
2019年6月期	—	—	—	—	—
2019年6月期(予想)	—	0.00	—	70.00	70.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年6月期の業績予想 (2018年7月1日~2019年6月30日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	1,054	6.4	339	17.3	351	17.9	253	8.7	105.53
通期	2,100	2.9	645	7.9	667	8.5	485	5.3	202.42

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年6月期1Q	3,000,000株	2018年6月期	3,000,000株
② 期末自己株式数	2019年6月期1Q	600,752株	2018年6月期	600,751株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年6月期1Q	2,399,249株	2018年6月期1Q	2,399,400株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（日付の表示方法の変更）

「2019年6月期 第1四半期決算短信」より日付の表示方法を和暦表示から西暦表示に変更しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期貸借対照表	4
(2) 四半期損益計算書	6
(3) 四半期財務諸表に関する注記事項	7
(継続企業の前提に関する注記)	7
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	7
(セグメント情報等)	7
(追加情報)	7

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

## (1) 経営成績に関する説明

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」（企業会計基準第28号 平成30年2月16日）等を当第1四半期会計期間の期首から適用しており、財政状態については遡及処理後の前事業年度末の数値で比較を行っております。

当第1四半期累計期間におけるわが国経済は、概ね安定した状態を維持しましたが一部で減速の動きも出てきました。10年ほど前に世界各国が不況からの回復、景気浮揚のために大規模な金融緩和を実施し、世界経済を活性化させ、株式市場上昇、資産価値増大、企業業績を回復させてきました。好景気を継続してきた米国で長期間に及んだ金融緩和状態を解除し、新興国に流入した資金が逆流するなど世界的に資金の流れが変化してきました。それに加えて米中の貿易関税問題なども世界の景気に影響を与え始めています。

日本国内では量産部品加工は比較的堅調に推移しましたが、半導体は長期にわたった好況に翳りが出てきて、電子部品も減少傾向となりました。設備投資は情報と融合した新たな生産設備の必要性などで一定の動きはありました。ただ量産部品、設備・治具など単品加工でも一部生産減少が見られ、景気変調の兆しが出てきました。

このような状況のなかコレットチャック部門では、概ね国内の量産部品加工は堅調に推移したことを受けて、7月から9月までの受注は前年同期に比較して僅かながら増加しました。ただ7月は好調でスタートしましたが、9月にかけてはやや減少傾向となりました。

この結果、当セグメントの当第1四半期累計期間の売上高は360,425千円（前年同期比6.2%増）、セグメント利益は201,122千円（前年同期比20.1%増）となりました。

切削工具部門では、8月は堅調な動きとなり稼働率も高まりましたが、9月に入ってから部品加工や単品の設備などが少し落ち着き、売上高は前年同期に比較して微増にとどまりました。利益に関しては、前期末にまとまった設備投資を実施し減価償却負担が増加したことにより前年同期に比較して減少となりました。

この結果、当セグメントの当第1四半期累計期間の売上高は143,172千円（前年同期比3.7%増）、セグメント利益は36,557千円（前年同期比16.1%減）となりました。

自動旋盤用カム部門では、カム式自動旋盤を使用する部品加工が堅調に推移し、当社への受注が増加したことで、売上は増加しました。

この結果、当セグメントの当第1四半期累計期間の売上高は6,604千円（前年同期比13.4%増）、セグメント利益は2,787千円（前年同期比24.7%増）となりました。

これらの結果、当第1四半期累計期間の売上高は510,203千円（前年同期比5.5%増）、営業利益は168,908千円（前年同期比18.7%増）、経常利益は170,936千円（前年同期比17.5%増）、四半期純利益は118,499千円（前年同期比7.4%減）となりました。

セグメント別の売上は、以下のとおりであります。

(%表示は対前年同期比)

事業部門別	期別	第28期 第1四半期 (自 2017年7月1日 至 2017年9月30日)		第29期 第1四半期 (自 2018年7月1日 至 2018年9月30日)		第28期 (自 2017年7月1日 至 2018年6月30日)	
		百万円	%	百万円	%	百万円	%
コレットチャック部門		339	(105.9)	360	(106.2)	1,420	(106.0)
切削工具部門		138	(104.5)	143	(103.7)	592	(105.5)
自動旋盤用カム部門		5	(72.0)	6	(113.4)	26	(88.0)
合計		483	(104.9)	510	(105.5)	2,039	(105.6)

## (2) 財政状態に関する説明

### (資産)

当第1四半期会計期間末における流動資産の残高は、6,679,914千円（前事業年度末は6,716,736千円）となり36,821千円の減少となりました。これは、仕掛品が9,544千円、原材料が2,560千円増加しましたが、受取手形及び売掛金が34,390千円、現金及び預金が14,961千円減少したこと等によるものであります。

また当第1四半期会計期間末における固定資産の残高は、1,987,196千円（前事業年度末は1,995,450千円）となり8,254千円の減少となりました。これは、投資有価証券が11,874千円増加しましたが、機械装置及び運搬具が32,385千円、建物及び構築物が8,340千円減少したこと等によるものであります。

この結果、当第1四半期会計期間末における総資産は、8,667,110千円（前事業年度末は8,712,186千円）となりました。

### (負債)

当第1四半期会計期間末における流動負債の残高は、284,622千円（前事業年度末は296,588千円）となり11,965千円の減少となりました。これは、未払金が74,872千円増加しましたが、未払法人税等が64,903千円、役員賞与引当金が10,790千円、買掛金が3,430千円減少したこと等によるものであります。

また、当第1四半期会計期間末における固定負債の残高は、461,752千円（前事業年度末は453,712千円）となり8,040千円の増加となりました。これは、退職給付引当金が5,650千円、役員退職慰労引当金が2,390千円増加したことによるものであります。

この結果、当第1四半期会計期間末における負債合計は、746,375千円（前事業年度末は750,300千円）となりました。

### (純資産)

当第1四半期会計期間末における純資産の残高は、7,920,735千円（前事業年度末は7,961,886千円）となり41,150千円の減少となりました。これは、その他有価証券評価差額金が8,299千円増加しましたが、利益剰余金が49,447千円減少したことによるものであります。

## (3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期累計期間及び通期の見通しにつきましては、2018年8月10日発表の業績予想どおりとなる見込みであります。

## 2. 四半期財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年6月30日)	当第1四半期会計期間 (2018年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	6,059,312	6,044,351
受取手形及び売掛金	465,831	431,440
製品	1,911	2,037
原材料	26,446	29,006
仕掛品	163,669	173,214
その他	205	472
貸倒引当金	△642	△608
流動資産合計	6,716,736	6,679,914
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	510,593	502,253
機械装置及び運搬具(純額)	564,852	532,466
土地	328,869	328,869
その他(純額)	1,608	23,658
有形固定資産合計	1,405,923	1,387,247
無形固定資産	2,410	2,230
投資その他の資産		
長期預金	301,727	301,727
投資有価証券	145,657	157,531
長期前払費用	1,225	1,114
繰延税金資産	138,486	137,325
その他	435	435
貸倒引当金	△415	△415
投資その他の資産合計	587,116	597,718
固定資産合計	1,995,450	1,987,196
資産合計	8,712,186	8,667,110
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	18,559	15,128
未払金	98,633	173,506
未払法人税等	124,414	59,510
役員賞与引当金	15,000	4,210
その他	39,981	32,267
流動負債合計	296,588	284,622
固定負債		
退職給付引当金	351,292	356,942
役員退職慰労引当金	102,420	104,810
固定負債合計	453,712	461,752
負債合計	750,300	746,375

(単位：千円)

	前事業年度 (2018年6月30日)	当第1四半期会計期間 (2018年9月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	292,500	292,500
資本剰余金	337,400	337,400
利益剰余金	8,133,606	8,084,158
自己株式	△841,332	△841,335
株主資本合計	7,922,173	7,872,722
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	39,712	48,012
評価・換算差額等合計	39,712	48,012
純資産合計	7,961,886	7,920,735
負債純資産合計	8,712,186	8,667,110

## (2) 四半期損益計算書

第1四半期累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期累計期間 (自2017年7月1日 至2017年9月30日)	当第1四半期累計期間 (自2018年7月1日 至2018年9月30日)
売上高	483,447	510,203
売上原価	272,446	272,403
売上総利益	211,001	237,799
販売費及び一般管理費	68,748	68,890
営業利益	142,252	168,908
営業外収益		
受取利息	482	146
売電収入	2,540	1,660
貸倒引当金戻入額	89	-
その他	82	220
営業外収益合計	3,195	2,027
経常利益	145,448	170,936
税引前四半期純利益	145,448	170,936
法人税、住民税及び事業税	53,100	54,850
法人税等調整額	△35,630	△2,412
法人税等合計	17,469	52,437
四半期純利益	127,978	118,499



## (3) 四半期財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

- I 前第1四半期累計期間(自 2017年7月1日 至 2017年9月30日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期損益 計算書計上額 (注)2
	コレット チャック部門	切削工具部門	自動旋盤用 カム部門	計		
売上高						
外部顧客への売上高	339,517	138,105	5,825	483,447	—	483,447
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	339,517	138,105	5,825	483,447	—	483,447
セグメント利益	167,469	43,574	2,236	213,280	△71,027	142,252

(注)1 セグメント利益の調整額は、製造部門共通費△2,278千円と主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

- II 当第1四半期累計期間(自 2018年7月1日 至 2018年9月30日)  
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期損益 計算書計上額 (注)2
	コレット チャック部門	切削工具部門	自動旋盤用 カム部門	計		
売上高						
外部顧客への売上高	360,425	143,172	6,604	510,203	—	510,203
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	360,425	143,172	6,604	510,203	—	510,203
セグメント利益	201,122	36,557	2,787	240,468	△71,559	168,908

(注)1 セグメント利益の調整額は、製造部門共通費△2,668千円と主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を当第1四半期会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示しております。